とねの絆

第19号
古河市第13地区
発行
令和5年2月28日
とねの絆
広報委員会

令和5年度 第13地区民生委員児童委員

◆委員紹介　（令和4年11月30日改選）

地区名	氏名	
前林	因泥康友	知久利行
町水海	能城和子	
内水海	亀井和子	山中洋子
高野（北新町）	阿久津成克	小関日出男
上砂井（砂井新田）	太田元行	

※古河市総和地区　民生委員児童委員・・・主任児童委員（南中学区）未決定
※高野行政区　北新町行政区を含む
※上砂井行政区　砂井新田行政区を含む
※民生委員児童委員の任期（3年）再任可
◎民生委員児童委員の活動・・・特に主な活動を上げると
○児童が安心して生活できるよう地域への協力、高齢者・1人暮らしの高齢者等の安否確認・協力などが上げられる。

第13地区コミュニティ

会長　佐藤　博史

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。第13地区内の皆様方におかれましては、日頃より地区コミュニティ活動にご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。第13地区コミュニティ会長であった五月女光男氏が昨年の10月に逝去されたことから私が同地区コミュニティ会長となりました。長年の間、第13地区や市の行政等に携わり多大な業績を残された五月女会長には大変敬服しております。私も五月女氏を手本とし、微力ながら精進してまいりたいと思います。

さて、令和2年初頭に蔓延し始めた新型コロナウイルス（以下コロナと記述）も今年で4年目に入ります。当初は個人の行動が制限されていましたが、昨年からコロナに感染しても殆どの人が軽症や無症状であることもあって、旅行などの行動が制限されなくなりました。しかしながら、コロナに感染すると、高齢の方や基礎疾患のある方は重症化する危険があります。又コロナはインフルエンザウイルスとは異なり、変異を繰り返して夏の暑さにも強く、収束させることは容易なことではありません。昨年末の統計によると茨城県の人口約285万人のうち約19%の累計約54万人の人がコロナに感染しており、油断すると誰もが感染する危険性があります。

このような状況なので今年も市のイベントやスポーツ大会などの様々な行事が縮小又は中止を余儀なくされると思いますが皆様方におかれてもこれまで同様に人混みの中ではマスクの着用、帰宅時には手洗い、うがいの励行することはもちろんのこと、三密（密接、密集、密閉）を避けてコロナには絶対に感染しないよう健康には十分注意して下さい。そして第13地区の皆様方が今年も日々平穏で幸せな生活が送れますよう心より願っています。

地方創生について

砂井新田　鎌仲　英俊

10月25日に中央公民館で開催された「市長と語ろう・まちづくり」に参加してきました。人口減少・高齢化、子育て支援及び雇用確保や商業活性化の話がありました。自治体（官）だけでなく民間の力を借りて地域創生を進めていく。その中で、又新しい工業団地開発、商業施設誘致など魅力ある話や「古河市の魅力アップ」の話もありました。若い人の集まる、観光客が訪れたくなる街づくり、その為には市だけではなく、我々市民の意識アップ・協力も必要と思いました。「古河ブランド」が拡がり活力のある街になって欲しいものです。

市長と語ろう・まちづくり

町水海　能城　忠雄

10月25日（火）中央公民館で「市長と語ろう・まちづくり」が開催され、市長から古河市における「官民連携での地方創生」についての説明、続いて参加者との意見交換が行われました。

市民からは、人口減少による生活関連サービスの縮小、税収減による行政サービスの低下、公共交通の撤退・縮小・空き家・耕作放棄地の増加、地域コミュニティの機能低下などへの対策が喫緊の課題であり、「地方創生」を官民連携で進めていくことが極めて重要であるとのことで、具体的には①新たな工業団地を開拓②民間主体の観光振興③子育て拠点施設の整備④駅東地区の大規模な商業施設の建設をめざし、実際に効果を上げているとのことでした。

続いて市長と住民との間で意見交換が行われました。参加者からは、「古河市っていいよね」という思いを共有するために情報発信が重要である、公共Freewi-fiが10カ所というのは貧弱ではないか、駅東地区の開発でのヒ素の問題はどうなっているのか、古河市のハブ化のその後は、四半世紀も前から道路整備申請を出しているが、動いていないなどという意見が出され、市からそれぞれ回答を頂きました。

市長から古河市の青写真が示され、住民との意見交換が行われたことで、行政を身近に感じることができました。参加者一同「古河市っていいね」という言葉を共有できたと思います。

交通安全指導

交通委員長　稲葉　信也

コロナがいつ終わるかわからない中、令和4年度立哨活動を無事に終えることが出来ました。

立哨時間帯は、通勤や幼稚園、保育園の送迎時間帯で結構スピードを出して走る車が多いという事実、ドライバーの皆さんが時間に追われているせいか、ゆとりのなさそうないらついた感じの方も結構いらっしゃいます。これは横断歩道に立たなければ分からないことです。

登校している子供たちが、事故がないように安全に無事に学校に到着するよう願いながらの立哨を行なっています。

国道新4号バイパス歩道橋

町水海交差点

水海小学校入口交差点

前林交差点

釈迦西交差点

スポーツフェスティバル古河2022

内水海　梁河　紀栄

11月3日（火）古河市の行事である運動会が中止となり、それに変わるスポーツはできないだろうか、特に幅広い世代の参加者ができるスポーツ「スポーツフェスティバル」を計画した。会場は、①陸上競技場②サッカー場③イーエス中央運動公園広場等に多くのスポーツコーナーを設置④体育館内、午前の部・午後の部に分けここでも多くの施設が準備されました。

施設は・陸上競技場、野球、サッカー、ソフトボール、ゲートボール、ホッケー、バルーン

体育館・午前の部、体力測定、剣道・午後の部、体操、バスケットボール、ソフトバレーボール、綱引き、その他、空手道、障害者スポーツ（ポッチャ・卓球バレー）等が実施され、多くの参加者により成功裡に終了しました。

中でも、スタンプラリーに小学生や中学生の家族連れが多く参加されスタンプ2個でタオルをゲットに大喜びでした。スタンプラリーは前期の（外部・室内のスポーツを各1種目体験すること）タオルはこがにゃんこコラボマフラータオル。

ソフトバレーボール体験では、誰でもがお菓子や飲み物がゲットできるゲームを準備しました。（①②③）130人の人が参加されました。

①箱の中にボールを投げ入れるゲーム

②ソフトバレーボールに触れレシーブの体験ゲーム

③小学生以上は、試合形式の体験ゲーム

三部門に分かれて体験できるゲームでした。参加者の楽しかったという声を聞き成功でした。

▲オリンピック金メダリスト、山室光史選手による体操の実技指導

○古河市にゆかりのあるトップアスリートによる実技指導

三島神社どんど焼き

町水海　能城　忠雄

三島神社で正月を締めくくる行事、どんど焼きが1月14日に行われました。いにしえの宮中行事・左義長が起源だそうですが、年神様を見送る火祭りです。

境内では、氏子が持ちよった正月飾りやしめ縄、書き初め、昨年に頂いたお守りなどをお焚き上げしていただきました。正月飾りを目印にきてくださった年神様を正月飾りを燃やした煙とともに見送るという意味もあるそうです。

縁起物を燃やして、五穀豊穣、商売繁盛、家内安全、無病息災をお願いしました。以前は水海小学校の校庭でも行われたことがあったそうですが、13地区では三島神社でのみ行われています。

「サロン紅」町水海行政区の活動

町水海　能城　忠雄

「サロン紅」は、古河市社会福祉協議会が推進しているふれあいいきいきサロン事業を受けて、町水海行政区で開催されて今年で10年目を迎えます。男性2名と女性14名の16名で活動しています。2名の指導士は行政区の住人です。

月2回開催し、第1水曜日に、椅子での体操と顔面体操（コロナ対策のため無言で）、第3水曜日は、床での体操と顔面体操を10時から11時15分を目処に行っています。最年長は88歳の女性ですが、皆さん昔ながらの顔なじみで、気兼ねすることなく元気よく体操しています。サロン活動の目的が「参加者の生きがいと健康づくり」とありますがシルバーリハビリ体操がその一翼を担っています。

「お神酒が上がりました」

町水海　能城　忠雄

町水海では、例年4月15日に三島神社春季例大祭が、11月15日には三島神社秋季例大祭が行われます。

三島神社は、廻国雑記（1486年）にも所在が明記されており、梁田氏が伊豆三島神社より勧請したといわれています。言い伝えによると「三島神社の西方の大きな銀杏の木のてっぺんに大きないけごが引っかかっており、風が吹くたび月の光に照らされて妖しく輝いていたという、そこで若者が中をのぞいて見ると黒光りする石が1つ入っていた」とあり、そのころに建立されたとのことです。当社は町水海の鎮守になっています。「お神酒が上がりました」というのは、氏子世話人が町内を回る時の神社開催の合図です。秋季例大祭では、境内で参拝客にけんちん汁と甘酒が振る舞われます。奉納された餅は縁起物として、住民に平等に配られます。今年の秋季例大祭はあいにくの雨天でしたが、そこそこ参拝客に恵まれました。13地区の他の行政区の皆さんも参拝いただければと思います。

惜しい人「五月女光男」氏を思う

五月女光男氏とは約24年来の行政区の仕事に一緒に携わってきた。

内水海行政区の役職14年・第13地区コミュニティ10年間活動してきた故人「五月女光男氏」について述べたいと思います。

内水海行政区長と並行して、次のような役職を歴任される。

・古河市交通安全協会会長

・総和町行政区自治会会長

・古河市行政区自治会会長

・第13地区長を歴任する。

活動として

①通学路の安全を最優先に道路カーブミラー、街灯の設置

②道路の不整備の申請、修理

③粗大ごみ置き場の設置

④内水海集落改善センターの外壁修理

⑤神明神社前の10年来の舗装道路工事の完了

⑥消防団員の福利厚生の改正呼びかけにより総和町全消防団において改正となる。

⑦町総ぐるみ清掃時、水海小学校周辺の小枝切り

第13地区自治会長となって

・安全保険の全戸加入・国道新4号線バイパスのごみ清掃・交通安全立哨指導（のぼり旗の作成）

・第13地区コミュニティを設立し、①広報活動②交通安全指導③商法活動の3本柱を中心に活動を始めるなど多大な業績を残されました。特に地域の安心安全な生活をモットーに掲げて頑張ってこられた「五月女氏」だった。本当に残念で寂しいです。長い間ありがとうございました。

梁河　紀栄

編集後記

政府は5月8日に新型コロナを「2類相当」から季節性インフルエンザと同じく「5類」に引き下げる方針を決定する。5類になると行動制限が大幅に緩和されマスクの着用は「個人の判断」になるという。

コロナ感染をきっかけに心臓などの持病を悪化させ、身体機能の低下している高齢者ほど亡くなるケースが目立つ。

今後は、医療費やワクチン接種の公費負担を段階的に縮小するということは国民の自己負担が大きくなるのではないか不安です。

古河市では、行事・活動が少しずつ緩和されてきましたが、まだコロナの影響があります。

古河市の高齢者などの高いリスクの患者の感染の数を見ると・・・9月5日～2月20日現在、3,648人

今年度「とねの絆」第19号が発行されました。原稿のご協力ありがとうございました。

広報委員長　梁河　紀栄